

# アメリカの 最新コース管理情報を読む

## ● USGA GREEN SECTION RECORD ● GCSAA GOLF COURSE MANAGEMENT

その日プレーするコースに  
対するゴルフファアの評価  
は、1番ホールティーグラウ  
ンドに立った時に初めて下され  
るわけではない。天然芝の練習  
場を備えたコースでは、ゴルフ  
ファアはそこで実際に球を打つて  
先ず何らかの感触を得、その印  
象がコース全体のコンディショ  
ンや、プレー体験そのものの評

### USGA GREEN SECTION RECORD

## Getting the Most From Your Grass Practice Tee

By Zach Nicoludis, regional director, Central Region

## 天然芝練習場～与えられた環境を 最大限に活かすには～

ザック・ニコルディス 中央支部ディレクター  
〈2025年5月3日号〉

待に反して頻繁にクローズして  
いるケースもある。ゴルフファ  
アにとっては、しっかりと練習し  
たい時にいつでも、ベストなコ  
ンディションで打てる環境が重  
要なのだ。  
天然芝練習場に関して問題を  
抱えているとすれば、練習場の  
面積を拡張するのがベストの解  
決法であるが、残念ながら、二

価に影響を与える。  
しかし、ニーズに  
副った練習場の面  
積を十分に取れる  
ゴルフコースは稀  
であり、結果とし  
て、コースコンデ  
ィションのクオリ  
ティーに見合った  
練習場が確保でき  
ない場合が少なく  
ない。練習場では  
芝の密度が乏しか  
ったり、凸凹が多  
かったり、雑多な  
芝種が混在してい  
ることが多い。ま  
た、メンバの期

ーズに應えるだけの広さを確保  
するスペースも、そのためが多  
算も持ち合わせないコースが多  
い。天然芝の練習場を持てるだ  
けで良しとし、現状で可能な限  
りの維持管理に注力せざるを得  
ない。しかし実際には練習場の  
大小にかかわらず、クローズす  
る頻度を低減し、管理プログラ  
ム、芝種選択を含めた諸要因を  
精査することで、大幅な状況改  
善が可能となる。



天然芝練習場をベストのコンディションで  
維持するには、その用途に特化した管理プ  
ログラムが欠かせない

## 練習場オープン・クローズの裁量

年間を通した天然芝練習場のパフォーマンスは、オープン・クローズの裁量によって大きく左右される。当然ゴルフファーにとってはコンスタントに使用できることが望ましいが、コンディションが不十分であるまま開放したり、さらに酷使したりすれば、事態の悪化を招き、その分打席マットの使用を長引かせることとなる。

毎年芝の生長が旺盛な時期を見極めることが、オープン・クローズのゴーサインとなるが、コースの所在地、芝品種、気象条件などの諸要因に即して考えることも大切である。春、芝の活性が上がらないうちに練習場をオープンしたり、秋冬に芝の活性が落ち始め、やがて休眠してからもクローズせずにいたりすると、ディボットからの回復は大きく遅れる。また休眠状態、或いは活性の低い芝に過度な踏圧がかかると、生長期が始まる

天然芝練習場を少なくとも週に一度クローズすれば、練習場の打席周辺を傷めることなく、ディボットの回復にも余裕ができる。但しドライビングレンジが狭い場合は、週に一度では足りない懸念もある。



まで尾を引くようなダメージとなる。年毎にバミューダ芝練習場開放のタイミングを計るため、如何に芝の成長能力を有効な判断材料とするべきか、グリーンセクションレコード配信の「When Should You Make the Move to Mats?」を参照されたい。他の暖地型、寒地型芝についても同様であり、その要領は芝種と練習場のサイズによって変わって

くる。

ドライビングレンジをオープンしたら、ディボットを管理して回復に要する時間を確保するために、週内の稼働日数を調整することが肝要である。天候にかかわらず、通常は月曜日に、打席マットの使用をお願いするケースが多い。週に一度はクローズしたとしても、一般的な広さの練習場ではディボットが深刻となり、特にシーズン後半には打席をセットするスポットが見つからないほどである。芝の打席を毎週の二日目にクローズするか、或いは特に狭い練習場ではさらに日数を増やすことが、使用可能なスペースの確保に繋がる。例えば練習場を年間7カ月に亘って開放するとして、芝の打席のクローズ日を週に一日増やせば、シーズンを通して更に28日分休ませることができる。毎週二日以上クローズする場合は、決まった曜日にしかプレーできないメンバーにも支障が出ないよう、週毎に曜日を替えるとういだろう。

また悪天候の折には、練習場は極力クローズするべきである。水を多く含むとディボットや踏圧によるダメージがより多く生じ、芝を傷めずに打席をセット、或いは移動することが難しくなる。寒地型芝が酷暑や多湿に見舞われたり、芝種にかかわらず霜害が出る場合にも、練習場をクローズしたほうがよい。基本的に、芝の生長を著しく妨げるような、またダメージを加速させるような天候に際しては、クローズする判断が求められる。

芝の練習場にディボットにも対処できるだけの面積の余裕がなく、拡張も困難である場合、或いは悪天候下でも稼働が期待されるのであれば、質の良い人工芝マットの導入が必須となる。それによりディボットからの回復途上でも、生憎の荒天でも、ドライビングレンジをクローズせずに対処できる。ゴルフファーが打席マットに辿り着くために芝の上を歩いたり、スタッフが車両で立ち入ったりしなくて済むよう、セットアップは本来の

天然芝練習場を備えたコースでは、人工芝マットを用意して悪天候時に代用し、その間は芝を休ませるようにするとうまい



打席より後方にするのが理想である。もし芝の打席の前方にセツトされているなら、そこまでの通り道を設けることが肝要だ。その場合、ゴルフファーが打席マツトで懸命に練習している間に、芝の管理作業を進められるという利点はある。

## 管理プログラム

練習場の打席エリアの管理には十分な時間を確保しなければ

ならない。上質なプレー面を実現するため、週に2〜3回の刈込作業が欠かせない。さらに、期待されるコンディションと芝種によつては、ティーグラウンドやフェアウェイと同じ防除対策、更新作業で管理するとよい。

芝の回復を促進し、発芽を助け、新しい幼苗を護るためにも、練習場の管理にはティーグラウンドやフェアウェイよりも多くの水が必要となる。効率的な散水のため、練習場の後方に設置したスプリンクラーにクイックカプラー（ホースを散水栓に繋ぐジョイント）を取り付けるコースもある。そうすることで、既に活着した広範な芝に余分な水を与えずに、デイポットに難なく手散水を施すことができる。打席が指定してあるか、ゴルフファーがティーアップして打っているかによつて、デイポット修復のための手散水を行うタイミングが変わってくるが、クイックカプラーがあれば、補完的なピンポイントの散水が遥かに容易になる。

施肥管理の観点からは、芝の回復を促進し、上質なプレー面を提供するために、十分な栄養の供給が不可欠である。各エリアの年次栄養分析に練習場を含めることは、栄養素の欠乏を回避する上で賢明な判断といえる。

練習場の打席において芝の回復を助けるには、コース上のティーグラウンドやフェアウェイよりも多くの栄養が必要となるとしても、過剰な施肥を避けるべく、バランスを取ることも肝要である。サッチが多く芝面がフカフカする軟らかい練習場をよく見かけるが、その原因の一端は、更新作業プログラムの不備による肥料の与えすぎとも考えられる。サッチが過剰に堆積すると、芝面のすぐ下に余分な水が滞留するため、降雨、特に大雨の際には、練習場クローズの長期化に繋がりがかねない。練習場のティーグラウンドが軟らかすぎる時は、施肥プログラムを見直し、有機物堆積対策を強化するべきであろう。

芝の回復を促進し、発芽を助け、新しい幼苗を護るためにも、練習場の管理にはティーグラウンドやフェアウェイよりも多くの水が必要となる。

デイポットミックスに種子を混ぜるかどうかは、度々議論的となる。クリーピングベント芝がメインであれば、種子を入れた目砂を使うことが多い。チューニングフェスクの種、或いはチューニングフェスクとクリーピングベント芝の種を混合する方法もある。チューニングフェスクの方が早く発芽し、クリーピングベント芝がデイポットの縁から顔を出すまでの間、つなぎの下草の役割を果たす。

ペレニアルライグラスも発芽のスピードが極めて速いため、デイポットミックスに混ぜるコースもある。しかし、クリーピングベント芝にペレニアルライグラスを播種すると、生育特性と発色の違いから、まだらな芝面となる可能性もある。チューニングフェスクとは異なり、ペ

通常のデイボット修復作業に加えてスリットシューティングを行うと、芝の回復が加速する。スリットシューターの跡に新しい芝が出ているのがわかる。



レニアルライグラスは時が経ってもクリーピングベント芝に締め出されることはなく、逆に早晩、練習場全体がペレニアルライグラスで覆われる可能性もある。そうなれば速やかな回復という観点からは望ましいかもしれないが、果たしてペレニアルライグラスがプレーコンディションに相応しいのか、それはまた別の問題である。また、ペレニアルライグラスは病害耐性が

低く、極端な高温にも弱いいため、夏季には問題を抱えることにもなりかねない。

よりデイボットが深刻なエリアでは、スリットシューティングを用いて回復を促進できることが検証されている。スリットシューター機器の改良も進み、芝面をほとんど傷めずに作業ができる。

生長が旺盛なケンタッキーブルーグラス、バミューダ芝、ゾシヤ芝を練習場で管理する際には、デイボットの修復に目砂を用いるが、元気な葉身が既に多数顔を出しているため、種子は混合しない。バミューダ芝の練習場にウインターオーバードとして冬場も稼働するのであれば、ペレニアルライグラスの種の混合も考えられ、その場合は補足の施肥が必要となる。オーバードされたライグラスは、日照時間の少ない寒冷な冬場では、発芽するが成長速度は遅くなることを認識しておく必要がある。オーバードされた練習場の稼働率が高い場合に

は、上質なプレーコンディションを維持するため、冬の間にはソッドを張るコースも出てきている。詳細についてはグリーンセクションレコード配信の「Instant Practice Facility Tees」を参照されたい。春に練習場のコンディションを重視するなら、バミューダ芝の一部にオーバードを行い、残りのエリアは冬の間クローズすることが望ましい。そうすれば、オーバードした部分の変換を進める間、休ませたエリアを養生し、春先には良い状態でオープンできる。

デイボットの修復を如何なる頻度で行うかは、人手の多寡と管理作業のスケジュールにかかっている。最低でも週に一回、人手が十分であれば複数回が望ましい。週に二回以上の作業が叶えば回復を早めることができ、少しでも早い回復は長い目で見ても有益である。デイボット修復の際には、目砂の量が多過ぎなければならぬ。目砂の量が多過ぎるデイボットは凸凹の原因

Golf Course Accessories  
**STRONG**

**ホールカッターPRO II**

**108Φmm PRO II用カッターエッジ**

**樹脂製カップセッター**

ホールカッター、カップ用品のご紹介をいたします。ホールカッターの設置に欠かせない商品です。是非ご利用ください。



504-ST ホールカッターPRO II  
本体:108Φ×880mm  
スチール製 柄:木製  
カッターエッジ(波刃)スチール製  
定価:67,160円  
ダイヤモンドレーザーカットされたカッターエッジにより、カップ切りを簡単に行うことができます。



504-ST-1 108Φmm PRO II用カッターエッジ  
本体:108Φ×225mm  
スチール製 波刃  
定価:27,000円  
ダイヤモンドレーザーカットされたカッターエッジにより、カップ切りが簡単に行うことができます。4か所のボルトで簡単に取り外すことができます。



505-A 樹脂製カップセッター  
本体:183Φ×87Hmm 樹脂製 色:ブルー  
カップカバーガイド付  
定価:3,900円  
このカップセッターを使えば、USGAのルールに沿った深さにカップを簡単にセットすることが可能です。またカップの縁へのダメージを最小限に抑えることができます。

※定価はいずれも本体価格です。

**TEL.072(858)5155(代) FAX.072(858)6001**

〒573-0112 大阪府枚方市尊延寺2丁目26-2 ホームページ <http://www.strong-golf.jp>

**ストロング商事株式会社**

となるので、適切な目砂散布作業が行われるよう、スタッフの教育に時間を惜しむべきではない。

ディボットで芝面に開いた凹みは雑草が発芽する絶好のスポットとなり得るため、特にメヒシバとオヒシバの侵入は、阻止すべき課題である。ディボットミックスに種子が含まれている場合、発芽に与える影響を考えると、練習場に発芽前除草剤（土壌処理除草剤）を使用すべきかどうか度々議論となる。一般論として、発芽前除草剤は既存芝の根の伸長、また種子の発芽と生長に影響を与えるが、その度合いについては複数の要因が絡んでくる。練習場に発芽前除草剤の使用を考えているなら、シーズンを通してテスト区画を設け、ディボットの回復が如何なる影響を受けるか、先ずは見定めるとよいだろう。

## 備 総合的な管理システムの整

練習場をどのように管理する

かで、プレーコンディションも芝の回復状況も変わってくる。打席を後ろから前に移動させるか、その逆か、どちらにしても利点と難点がある。先ず後ろから前に動かしていく場合は、ゴルフファーが練習している間に、少し前まで使っていたエリアでディボットの修復作業ができる。さらに、プロワーカーまたはスイーパーでディボットを取り除く際



打席を前から後ろに動かすか、その逆か、どちらにも利点と難点がある。後ろから前に移動すると、稼働中にも修復作業を進めやすい。

に、修復したばかりのディボットを傷めずに済む。その反面、ゴルフファーに少しずつ前に出て練習する余地を与え、翌日のために整備されたエリアにディボットを打ち込んでしまうリスクがある。

一方前から後ろに動かせば、ゴルフファーが前に出ることは回避できるが、ディボット修復の目砂作業を練習時間に行うことはできず、通常の管理作業の時間内に限られる。また、出来たてのディボットをプロワーカーなどで除去する際に、目砂散布が施されているディボットの砂を飛ばしてしまいうリスクもある。日によって打席を前後どちらの方向に移動するにせよ、前日のディボットの出来るだけ近くにセットアップすれば、スペースを最大限に利用でき、作業効率の観点から、練習場機材の移動距離を最小限に抑えられる。

ウォームアップにも練習にも十分なスペースを確保するため、打席の設置数についても慎重に考えなければならない。さらに、

前回使用した区画が回復し、再びセットアップできるまでどのくらい時間を要するかも考慮する必要がある。ディボットの回復に40〜50日ほどかけられれば理想的と言える。打席を移動する際は、丸々一打席分ではなく、移動幅を一打席の半分ないしは三分の一に限れば、回復にかける時間を目標に近づけることができる。スペースが余程限られている場合は、人工芝マッ



練習用のボールを小さな袋またはバスケットで提供すれば、ゴルフファーは必要以上に打たなくなり、ディボットの軽減に繋がる。

トを週1〜2度と言わず、さらに多用することも考えよう。

各打席で打たせるボールの数によっても、ディボットの数は変わってくる。ボール数が多いほどディボットも増える。ディボットを減らすため、練習場の入り口、或いはゴルフショップで、ボールを小さな袋に入れて渡すという戦略も散見する。詳細はグリーンセクションレコード配信の『Give 'Em the Small Basket』(2011)。

## 芝種の選択

メンバーは、実戦と同じ環境で練習したいとの思いから、フェアウェイやティーグラウンドに匹敵するクオリティーの芝を練習場にも求めるものである。至極尤もなのだが、実際には、芝が酷使される現状に鑑みても叶えるのは難しく、シーズンを通してとにかく芝を絶やさないことを優先せざるを得ない。練習場のスペースが限られ、コンディションの劣化が進むのであれば、より耐久力に優れ、回復

の速い芝種への変換を検討すべきである。

トランジションゾーンに位置するコースでは、クリーピングベント芝やペレニアルライグラスを練習場に使用すると、夏の盛りにダメージが生じることになる。低温に強いバミューダ芝や低刈りが可能なブルーグラスへの変換が考えられる。北寄りのコースでも、低刈りブルーグラスは良いチョイスである。バ



低刈りブルーグラスがクリーピングベント芝に比べて速く回復するのは、張り巡らされた地下茎のおかげである。

ミューダ芝と低刈りブルーグラスは共に生長が速いので、クリーピングベント芝より速く回復し、夏の暑さにも耐える。これらの芝種はディボットの空隙に生きた葉身が残るため、結果として回復が速まる。またバミューダ芝は寒地型芝に比べて衝撃に強く、同じスウィングを受けなくてもディボットが浅くて済むので、その分速く回復する。

回復力に優れ、繁忙期に上質なコンディションを提供できる芝種に変換すれば、練習場をクローズする日数を削減し、良い状態で稼働することができ。グリーンセクションレコードのリサーチでディボットについて、あるコースのバミューダ芝とベント芝の練習場における夏場の回復状況を比較検証したところ、バミューダ芝の方が明らかに速かった(『Practice Tee Divot Recovery in the Upper Transition Zone - Hybrid Bermudagrass vs. Creeping Bentgrass』参照)。このコースでは夏の間バミューダ芝を、春と秋にはベント芝を使っている。

あくまで広大な練習場を持つコースの例であるが、練習場スペースに余裕がない場合でも、時期によって二つの芝種を使い分ける戦略は一考に値する。

練習場の一部、或いは全面に耐寒性に優れたバミューダ芝を導入する場合は、春先および秋から冬にかけての管理が重要となる。また、寒地型芝のプレー面にバミューダ芝が侵入しないよう留意すべきである。低温傷害対策として、カバー掛けを取り入れるのもよいだろう。さらに、フェアウェイやティーグラウンドとは異なる芝種を練習場で使用するのであれば、選択する品種に即した管理プログラムの調整も考えなければならない。例えば北東部コースの練習場では、フリーズモウイングが有効である。

練習場では繰り返しディボットの修正が行われるため、定期的に凹凸を均し、不陸を補正する必要がある。そのタイミングで、よりパフォーマンスを向上させると思われる品種に変換す

ペンシルバニア州のコースでは、練習場におけるティショット回復の効率向上のため、春と秋にペント芝を、夏場は耐寒性に優れたハイブリッド・パミューダ芝を使用している。



るのは極めて理に適っている。芝種変換は厄介な難事と思われるが、大掛かりな工事を伴わない限り、また新しい芝面が活着するまで人工芝マットを活用すれば、短期間で完了することもできる。さらに、排水設備の補修や増設の好機ともなる。ルートゾーンの水分を適切に管理するには、暗渠排水が欠かせ

ない。

**まとめ**

クオリティーの高い練習場を維持し、できる限りコンスタントに稼働するためには、用途に合った管理と入念な施策が欠かせない。悪天候の際、また芝の活性が落ちた状況では、人工芝マットを活用し、養生しながら営業を続けることも必要となる。打席セットアップのロジステイクスや人工芝マットの使用頻度は、各コースの現状によって様々であり、それぞれのニーズと練習場の物理的制約に即して、意思決定者が協議していかなければならない。無制限に使用できるほど広大な練習場を持つコースは希少とはいえ、与えられた環境の中で、持てるものを最大限に活かす道は必ずあるはずだ。

Reprinted with permission of  
USGA Green Section Record

<p>除草剤</p> <p><b>イデトップ</b> フロアブル</p> <p><b>インプル</b> DF <b>スペクタクル</b> フロアブル</p> <p><b>デスティニー</b> WDG</p> <p><b>ウェイアップ</b> フロアブル <b>ダブルアップ</b> DG <b>マックワン</b> フロアブル</p>	<p>殺菌剤</p> <p><b>イカルガ</b>*35SC <b>バスクリン</b> DF</p> <p><b>シグネチャー</b> WDG</p> <p><b>オブテイン</b> フロアブル</p> <p><b>エメラルド</b> DG <b>ザンプロターフ</b></p> <p>サッチ分解剤</p> <p><b>イデコンボ</b> シリーズ</p>	<p>芝生専用肥料ブランド</p> <p><b>モテナ</b></p> <p>～フィールドタイプ～ <b>エコニックグレード</b> UFグレード</p> <p>～グラスフィードタイプ～ <b>アルテミスPS-33</b> ルートスターリキッド</p> <p>～グリーンシリーズ～ <b>モテナグリーンV2</b> <b>モテナグリーンP</b> その他お問合せ下さい。</p>
<p>着色剤</p> <p><b>フルグリーン</b> シリーズ</p> <p>樹幹注入剤</p> <p><b>グリーンガード</b> ファミリー</p>		
<p><b>サンアグロ株式会社</b></p> <p>本社 東日本営業部 第二グループ(関連資材) 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町17番10 日本橋小網町スクエアビル3階 TEL 03-6311-4315 FAX 03-4223-0634</p> <p>北海道営業部 TEL 011-251-0262 FAX 011-222-0543 西日本営業部 TEL 06-4967-3272 FAX 06-4967-3275 九州営業部 TEL 096-297-1136 FAX 096-353-7163</p>		